

Q. 部活動の地域移行は



つばい たかひと
坪井孝仁 議員

TSUBOI Takahito

A. 生涯学習審議会で審議

豊山町は小中学校の部活動が盛んな地域特性がある。部活動の在り方を考えるうえで、教育現場と保護者、地域と競技関係者との十分な協議が欠かせないことや、適切な指導を担っていただける人材や活動の場所の確保が重要である。小学校の部活動は、教員の働き方改革をふまえ、令和5年3月末には小学校の部活動の廃止が決まっている。豊山町の地域特性の一つでもある小学校の部活動が新たな受け皿がない状態で廃止されることは非常に残念である。

中学校の部活動は、平日の一日と土日のどちらかを休養日としている。一部の部活動は土日の休養日に地域の方のご尽力によって指導をいただいていると聞いている。

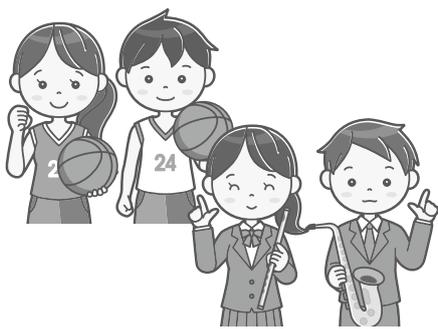
現在、教員の負担軽減には部活動の縮小、出勤時間や学校行事の見直し、子供たちの登校時間の変更によって一定の効果があったと聞いている。本町の部活動改革は令和7年度末に地域移行を目指し、令和3年度に発足された教育委員会主導の総合型地域スポーツ・文化クラブの新規プログラムを充実させながら、受け皿となる組織に徐々に移行する方針を掲げている。

スポーツ庁と文化庁は、令和4年12月に指導者不足や体制づくり、活動場所の確保などの観点から、令和7年度末で達成するとしていた目標設定の見直しがされた。国の方針が変わり、本町での児童生徒の部活動の地域移行への取り組みの現状と、今後の方針について聞く。

また、さらなる働き方改革が必要と考え、チーム担任制の導入を提案する。

A 教育委員会事務局長

小中学校ともに部活動のあり方について議論されるその目的の一つとして、教員の多忙を解消し、本来の業務である教材研究や授業準備に十分な時間と労力を費やし、より質の高い教育の実現を図るところにある。



中学校での部活動の地域移行について。

小学校の部活動は「総合型地域スポーツ・文化クラブ」を受け皿の一つとし、令和4年度に小学生を対象とする「ユニバーサルスポーツ教室」と「アレンジフラワー」を新たに追加し、拡充を図ったところである。令和5年度は、新たなプログラムとして「吹奏楽」「バスケットボール」「ポーツレクリエーション教室」を新設することを予定している。さらに、関係諸団体をはじめ学校との連携を図りながら、生涯学習事業である「わくわくくらぶ」などの拡充を図っていく。

中学校での部活動の地域移行は、関係団体との連携をはじめ、指導者や施設の確保、各種大会の在り方など対応すべき課題は数多くあるが、子どもの視点を軸として議論を進めていく。中学校の部活動は、長年にわたり、生徒がスポーツ・文化に親しむ機会を確保し、その活動の中で責任感・連帯感の涵養や自主性の育成にも寄与するなど、その意義は誰もが認めるところである。

今回の見直しは、休日の部活動から段階的に地域へ移行していくことを基本とするものである。現在、生涯学習推進審議会において、中学校の部活動の地域移行を中心課題として、本町における生涯学習体系の再編を視野に入れ、生徒の休日におけるスポーツ・文化活動の機会の確保について審議しているところである。

なお、実効性のある働き方改革を進めるために、チーム担任制などの新しい取り組みについても参考とさせていたいただきたいと考えている。